

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-27036

(43)公開日 平成10年(1998)1月27日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	府内整理番号	F I	技術表示箇所
G 06 F 1/00	3 7 0		G 06 F 1/00	3 7 0 F
				3 7 0 E
13/00	3 5 1		13/00	3 5 1 E
	3 5 4			3 5 4 A

審査請求 有 請求項の数12 FD (全 6 頁)

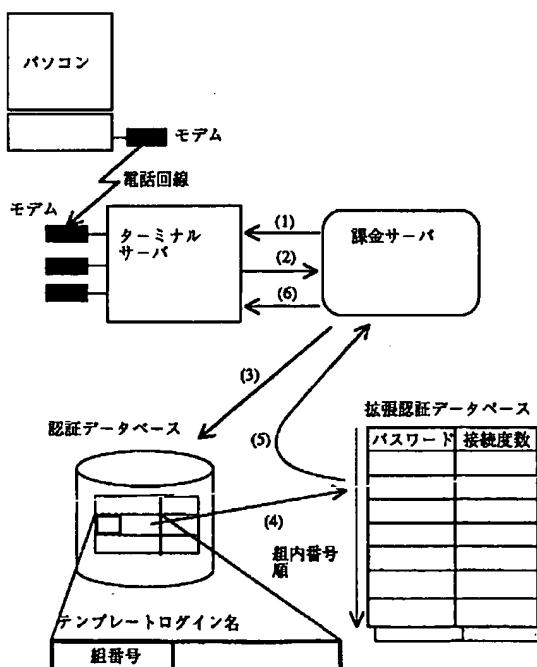
(21)出願番号	特願平8-201166	(71)出願人	596112088 株式会社インターナショナルサイエンティ フィック 東京都千代田区神田須田町1丁目5番地12
(22)出願日	平成8年(1996)7月11日	(72)発明者	白井 龍夫 東京都千代田区神田須田町1丁目5番地 12, 株式会社インターナショナルサイエン ティフィック内
		(74)代理人	弁理士 梅村 華爾

(54)【発明の名称】 インターネットの時限利用課金システム

(57)【要約】

【課題】 インターネットの接続に必要な業者との契約手続や使用料及び加入権の支払いといった手間を省き、簡単なアクセス及び課金方法によりすぐにインターネットの接続サービスを受けられるようとする。

【解決手段】 クライアントにインターネットとの接続サービスを提供するターミナルサーバと、クライアントから入力された個別情報に基づいてインターネットの接続可否を確認する認証サーバと、認証サーバに連動し各クライアントの個別情報及び予め設定された利用可能な時間を示す接続度数から構成される認証データを管理する拡張認証データベースと、拡張認証データベースに連動し各クライアントの接続利用時間に合わせて接続料金を計算して接続度数を逐次更新する課金サーバとを備え、拡張認証データベースで管理される接続度数が0未満なるまでの間に限りインターネットの接続サービスを提供してなる。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 クライアントにインターネットとの接続サービスを提供するターミナルサーバと、該ターミナルサーバからの指示によりクライアントから入力された個別情報に基づいてインターネットとの接続可否を確認する認証サーバと、該認証サーバに連動し各クライアントの個別情報及び予め設定された利用可能な時間を示す接続度数から構成される認証データを管理する拡張認証データベースと、該拡張認証データベースに連動し各クライアントの接続利用時間に合わせて接続料金を計算して接続度数を逐次更新する課金サーバとを備え、該拡張認証データベースで管理されるクライアントの接続度数が0未満なるまでの間に限りインターネットの接続サービスを提供してなることを特徴とするインターネットの時限利用課金システム。

【請求項2】 拡張認証データベースは、認証サーバにおける認証データベースの1つのレコード単位を識別可能な多数の認証データから構成されるようにしたものであることを特徴とする請求項1に記載のインターネットの時限利用課金システム。

【請求項3】 多数の認証データの識別は、各認証データ毎に組番号と連続した数字を表現する文字もしくは記号を用いた任意の桁数の組内番号とを組み合わせたテンプレートログイン名を登録することによりなされることを特徴とする請求項2に記載のインターネットの時限利用課金システム。

【請求項4】 認証データは、全て同一長さの固定長レコードであることを特徴とする請求項1乃至3の何れかに記載のインターネットの時限利用課金システム。

【請求項5】 認証サーバは、クライアントから入力された個別情報に基づく対応する認証データが拡張認証データベースから抽出された否かによってインターネットとの接続可否を確認し、その結果をターミナルサーバに知らせてなるものであることを特徴とする請求項1乃至4の何れかに記載のインターネットの時限利用課金システム。

【請求項6】 課金サーバは、ターミナルサーバに対し一定時間毎に各クライアントの接続状況を問い合わせることにより接続時間を確認し接続料金を計算して接続度数を管理するとともに、利用継続の可否を該ターミナルサーバに知らせてなるものであることを特徴とする請求項1乃至5の何れかに記載のインターネットの時限利用課金システム。

【請求項7】 課金サーバは、ターミナルサーバから一定時間毎に送られてくる知らせにより接続時間を確認し接続料金を計算して接続度数を管理するとともに、利用継続の可否を該ターミナルサーバに知らせてなるものであることを特徴とする請求項1乃至5の何れかに記載のインターネットの時限利用課金システム。

【請求項8】 拡張認証データベースと連動しクライア

2

ントの自由なアクセスにより自己の接続度数の確認検索を可能とするプログラムを動作するhttpサーバを設けてなることを特徴とする請求項1乃至7のいずれかに記載のインターネットの時限利用課金システム。

【請求項9】 拡張認証データベースと連動しクライアントの自由なアクセスにより複数の情報を所有するクライアントのそれぞれの接続度数を一つに合算することを可能とするプログラムを動作するhttpサーバを設けてなることを特徴とする請求項1乃至7のいずれかに記載のインターネットの時限利用課金システム。

【請求項10】 拡張認証データベースと連動しインターネットにおける有料情報の料金の徴収を該クライアントの認証データにおける接続度数から行うことを可能とするプログラムを動作するhttpサーバを設けてなることを特徴とする請求項1乃至7のいずれかに記載のインターネットの時限利用課金システム。

【請求項11】 インターネットとの接続のためにクライアントから入力される情報は認証データ毎にカードに印刷されることにより管理され、該情報をキーボードから20入力することにより接続可能としてなることを特徴とする請求項1乃至10のいずれかに記載のインターネットの時限利用課金システム。

【請求項12】 インターネットとの接続のためにクライアントから入力される情報は認証データ毎にカードに磁気信号をもって記録されることにより管理され、該カードをパソコンに接続したレコーダに読み込ませることにより接続可能としてなることを特徴とする請求項1乃至10のいずれかに記載のインターネットの時限利用課金システム。

30 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本願発明は、業者との契約手続を不要として不特定多数の者にすぐにインターネットを利用させるようにしたサービスの提供方法に係り、詳しくは、不特定多数者に対するサービスの提供に適応したインターネットとの接続可否判断を含めた接続の方法、接続時間の管理、課金方法及びその料金の徴収、等を効率よく行えるようにした時間制によるインターネットの時限利用課金システムに関するものである。

40 【0002】

【従来の技術】 インターネットへ個人が接続する場合、インターネットの接続サービスを行う業者（サービスプロバイダー）を通じて行うこととなるが、その際、業者との間で予め接続するための情報や料金の支払い方法についての取り決め手続を行わなければならない。接続するための情報とは、ログイン名やパスワード等のことであり、料金の支払い方法とは、クレジットカードの利用、直接銀行等金融機関からの口座引き落とし、請求書郵送による納付、等のことである。そのため、このような手続があることから、実際に接続できるようになるま

でにはかなりの日数を必要とするものである。

【0003】しかし、インターネットを利用したいといふ人の中には、仕事等の関係においてインターネット上の調査を行うことが急務とされ、煩わしい手続を省いてとにかく今すぐに利用することを欲する時間的余裕のない人や、そんなに頻繁に利用するつもりがないので業者に登録しようとは思わないが、出来れば気が向いたときに少しの時間だけ利用したいと要望する人、または、パソコンを所有していないが、機会があれば試しに利用してみたいと要望する人、さらに、既に業者に登録していても、旅行先や出張先等の利用場所もしくは地域によっては通常の手段が利用出来ない場合があり、その際、無駄な費用を掛けずに効率よく利用したいと欲する人、等数多くおり、その人たちからみればこのような従来のインターネット利用システムは、ある種の意味で自己の要望に応えることの出来ない閉鎖的な煩わしさを有したものである。

【0004】そこで、このような人達の要望に応え、不特定多数の者に対しても容易にインターネットの利用を行えるようにしたものとして、特定の場所（例えば、インターネットカフェと称するもの）において、時間を制限した時間制定額料金による課金方法のもとに、もしくは、入場退場の時間を元に計算した時間制従量料金による課金方法のもとに、第3者にインターネットを使ったサービスを提供するようにしたシステムが提案されている。

#### 【発明が解決しようとする課題】

【0005】しかし、上記のようなサービスの提供システムにおける課金方法は、インターネットにおける課金システムに対応して算出してなるものではなく、サービスを提供する場所もしくは設備に対して課されてなる料金という性格が強い表面的な時間制による課金方法であるため、実際にインターネットを利用したか否かによって算出されてなる適正な課金方法とはいえないものである。すなわち、インターネットにおける課金システムは、接続の確立と切断の時にターミナルサーバが結果をホストコンピュータに送り、ホストコンピュータで料金を計算してなるものであるため、接続切断するまでその料金計算が出来ないことから、前者のように予め料金を定額化したり、後者のように実質的な接続時間に關係なく入場退場の時間を元に料金を算出することは、インターネットの利用以外のものに対する料金の負担が多く、業者に登録せずにインターネットのタイムリーな利用だけを要望するものに対する課金方法としてはそぐわないものである。

【0006】本願発明は、このような課題に対処しようとするものであり、以下に記載の発明の完成により、今までのような煩わしい手間、すなわち、インターネット接続に必要な業者との契約手続や使用料及び加入権の支払いといった手間を省くことを前提とした手軽で簡易な

アクセスのもとで、その目的を成し得ることができたものである。

#### 【0007】

【課題を解決するための手段】本願発明は、多数のクライアントにインターネットとの接続を提供することのできるターミナルサーバと、各クライアントに対応する唯一のログイン名、パスワードといった個別情報や該個別情報に対応して予め設定された利用可能な接続時間を示す接続度数からなる認証データを、より多く、かつ、識別容易に管理することのできる拡張認証データベース

10 と、クライアントから入力された個別情報に基づいてインターネットとの接続の可否を該ターミナルサーバからの指示により確認する該拡張認証データベースと連動する認証サーバと、各クライアントの接続利用時間に合わせて接続料金を計算し、該拡張認証データベースの認証データにおける接続度数を逐次更新する該拡張認証データベースと連動する課金サーバとを備えてなるものであり、インターネットとの接続の際にその都度入力された個別情報に基づいてインターネットとの接続の可否を確認し、接続後は該拡張認証データベースで管理されるクライアントの接続度数が0未満なるまでの間に限り、連続使用、断続使用の別あることなくインターネットの接続サービスが提供されるようにしてなるものである。

#### 【0008】

【発明の実施の形態】本願発明は、クライアントにインターネットとの接続サービスを提供するターミナルサーバと、該ターミナルサーバからの指示によりクライアントから入力された個別情報に基づいてインターネットとの接続可否を確認する認証サーバと、該認証サーバに連

20 動し各クライアントの個別情報及び予め設定された利用可能な時間を示す接続度数から構成される認証データを管理する拡張認証データベースと、該拡張認証データベースに連動し各クライアントの接続利用時間に合わせて接続料金を計算して接続度数を逐次更新する課金サーバとを備えてなるものであり、該拡張認証データベースを、認証サーバにおける認証データベースの1つのレコード単位を識別可能な多数の認証データから構成されるようにしたものからなるものである。

#### 【0009】すなわち、UNIXマシーンのもとでのデータベースでは、登録できるログイン名は唯一であり、

30 それぞれに対してプログラム内で使用する唯一の整数を割り当てているが、不特定多数のクライアントに接続サービスを提供する場合には、それに対応した多くのログイン名の登録が可能となるようにする必要がある。

#### 【0010】従って、多くのログイン名を効率良く識別

40 容易に管理するためには、認証データベースにおける1つのレコード単位を、レコード単位毎に唯一の組番号と連続した数字を表現する文字もしくは記号を用いた任意の桁数の組内番号とを組み合わせることにより多数のテ

ンプレートログイン名を生成させ、認証データ毎に登録して構成されるようになると良い。

【0011】また、本願発明における認証データは、多数の認証データからなる1つのレコード単位の中から該当する認証データを検索しやすくするために、レコード単位毎にその認証データを全て同一長さの固定長レコードとしたものである。

【0012】また、本願発明における認証サーバは、クライアントから入力された個別情報の適否を、ターミナルサーバからの指示により拡張認証データベースから対応するクライアントの認証データが抽出されたか否かによって確認し、該ターミナルサーバにその結果を報告してなるようにしたものである。

【0013】また、本願発明における課金サーバは、ターミナルサーバに対し一定時間毎に各クライアントの接続状況を問い合わせることにより接続時間を確認し接続料金を計算して接続度数を管理するとともに、利用継続の可否を該ターミナルサーバに知らせてなるもの、もしくは、ターミナルサーバから一定時間毎に送られてくる知らせにより接続時間を確認し接続料金を計算して接続度数を管理するとともに、利用継続の可否を該ターミナルサーバに知らせてなるものである。

【0014】また、本願発明は、拡張認証データベースと連動しクライアントの自由なアクセスにより自己の接続度数の確認検索を可能とするプログラムを動作するhttpサーバを設けてなるものである。

【0015】また、本願発明は、拡張認証データベースと連動しクライアントの自由なアクセスにより複数の情報を所有するクライアントのそれぞれの接続度数を一つに合算することを可能とするプログラムを動作するhttpサーバを設けてなるものである。

【0016】また、本願発明は、拡張認証データベースと連動しインターネットにおける有料情報の料金の徴収を該クライアントの認証データにおける接続度数から行うことを可能とするプログラムを動作するhttpサーバを設けてなるものである。

【0017】さらに、本願発明は、インターネットとの接続のためにクライアントから入力される情報を、認証データ毎にカードに印刷されることにより管理されるものとして該情報をキーボードから入力することにより接続可能としてなるようにしたり、又は、認証データ毎にカードに磁気信号をもって記録されることにより管理されるものとして該カードをパソコンに接続したレコーダーに読みませることにより接続可能としてなるようにしたもある。

【0018】

【実施例】以下、本願発明の実施例を図面に基づいて説明する。クライアントはインターネットとの接続サービスの提供を受けるために、まず、ターミナルサーバと接続することとなるが、ターミナルサーバには複数のポートが用意されていて、それぞれのポートにはモデムがつながり電話回線を経由してクライアントにインターネットとの接続サービスを提供するようになっている(図1(1)参照)。

【0019】インターネットとの接続を依頼するクライアントは指定された個別情報を入力し、ターミナルサーバが入力されたクライアントの個別情報に基付いて接続するか否か判断した結果、初めてインターネットに接続できるようになるのであり、入力されたクライアントの個別情報の可否は、ターミナルサーバからの指示により(図1(2)参照)、認証サーバが連動する拡張認証データベースから対応するクライアントの認証データを抽出することが出来たか否かにより確認し(図1(3)、(4)、(5)参照)、該ターミナルサーバにその結果を報告することによりなされる(図1(6)参照)。

【0020】拡張認証データベースは、多数のクライアントに対応する多くのログイン名、パスワードといった個別情報や利用可能な接続時間を示す接続度数からなる認証データをログイン名をキーに1つのレコード単位として管理してなるものであり、認証サーバにおける認証データベースの1つのレコード単位を、多数の前記認証データから構成されるようにしてなる。

【0021】認証データの構成手段としては、認証データベースの1つのレコード単位毎に唯一の組番号と連続した数字を表現する文字もしくは記号を用いた任意の桁数の組内番号とを組み合わせることにより生成したものをテンプレートログイン名とし、該多数のテンプレートログイン名にそれぞれ対応した認証データを作成することによりなされる。例えば、認証データベースのレコード単位毎にISP1組、ISP2組、ISP3組、…といった組番号とし、さらに、各組番号毎に連続した数字を表現する文字もしくは記号を用いた任意の桁数の組内番号、例えば、0乃至9の連続した数字を用いた4桁の組内番号であれば、前記組番号一組に付き、0000、0001、0002、…、9997、9998、9999といった104個の組内番号が作成され、また、A乃至Zの連続した数字を表現するアルファベット文字を用いた4桁の組内番号であれば、前記組番号一組に付き、AAAA、AAAB、AAAC、…、ZZZ、ZZZY、ZZZZといった264個の組内番号が作成されることとなる。これにより認証データにおけるテンプレートログイン名が多数作成され、不特定多数の者へのアクセスが可能となる。

【0022】従って、クライアントが入力した個別情報の可否の確認は、次のように行われることとなる。

1. クライアントが入力したログイン名をキーに認証サーバにおける認証データベースからまず検索し、該当する認証データが見つかればその内容を読み込み、ターミナルサーバに成功を返し該クライアントの接続を許可する(図1(3)参照)。

2. 前記1. に失敗した場合は、該ログイン名の組番号部分を元にテンプレートログインを生成し、再度認証データベースの中から該当するログイン名を検索する（図1（3）参照）。該当するログイン名が見つからなければ失敗を返す。

3. 前記2. で該当するログイン名が見つかった場合は、ログイン名を元に拡張認証データの中から該当する内容を読み込み（図1（4）参照）、前記2. の結果と結合してターミナルサーバに成功を返し該クライアントとの接続を許可する（図1（5）及び（6）参照）。

【0023】また、課金サーバは、ターミナルサーバに對し一定時間毎に各クライアントの接続状況を問い合わせることにより接続時間と確認し（図2（1）及び（2）参照）、相応する接続料金を計算して認証データにおける接続度数の更新を逐次行うとともに（図2（3）、（4）、（5）参照）、利用継続の可否を該ターミナルサーバに知らせる（図2（6）参照）。

【0024】すなわち、ターミナルサーバのポート毎に前回微収ログイン名、微収実施時刻を用意し、決められた一定の時間毎にターミナルサーバ経由でポート毎に接続しているクライアントのログイン名を得る。ログインしていない場合はログインしていないことが判別可能な特別なログイン名が得られる。接続するクライアントのログイン名が得られた場合における料金の徴収は、定期的に各ポートに対しログイン名を元に以下の方法による動作を繰り返し行い実施することとする。

1. ログイン名が前回微収ログイン名と一致しない場合は、徴収実施時刻を現在の時刻にする。

2. クライアントが既にログインしていて、現在の時刻が徴収実施時刻以上の場合は、接続時間に相応する料金を計算し認証データにおける接続度数から該当度数分だけ逐次徴収することとする。もし、該接続度数が0未満な場合は、ポートをリセットして接続を切断する。

【0025】また、インターネットとの接続のためにクライアントから入力される接続情報は、認証データ毎にカードに印刷されることにより管理されるものとして該情報をキーボードから入力することにより接続可能としてなるようにしたり、又は、認証データ毎にカードに磁気信号をもって記録されることにより管理されるものとして該カードをパソコンに接続したレコーダに読み込ませることにより接続可能としてなるようにしても良い。この際、前者の場合においてカードに印刷されることとなる情報の項目としては、接続度数、サポートURL、ドメイン名、ドメインネームサーバIPアドレス、POPサーバ名、ログイン名、パスワード、等があるが、個別情報であるログイン名及びパスワードだけをクライアントが入力するようにして、該個別情報以外のものは予め利用するパーソナルコンピュータ内に設定しておくよろしくと良い。

【0026】また、本願発明においては、インターネット

トの利用に際して何ら制限されることがないので、クライアントの自由なアクセスにより接続度数を確認することが出来る接続度数確認プログラムや、接続度数をクライアントの操作で追加合算することのできる接続度数追加プログラム、または、インターネットにおける有料情報に対する料金を認証データにおける接続度数から徴収をする情報提供料徴収プログラム、等のhttpサーバ上で動作するプログラム群を設けたり、最初に表示するURLを指定することの出来るWWWブラウザと組み合わせて特定のWWWページを表示するようにすることも出来るので、インターネットの利用サービスを提供するものによって自由に環境を設定すると良い。

【0027】

【発明の効果】以上のように本願発明によれば、今までのよう煩わしい手間、すなわち、インターネット接続に必要な業者との契約手続や使用料及び加入権の支払いといった手間を単に省いただけでなく、手軽で簡易なアクセスのもとに適切、且つ、確実な課金方法において、インターネットの利用を幅広く、不特定多数の人に提供することが出来ることとなる。

【0028】しかも、接続度数を拡張認証データベースにおいて確実に管理することとなるので、予め設定された接続度数分だけ一度に連続使用する必要が無く、所望の時に好きなだけ利用する断続的使用も可能となり、接続度数分の接続サービスを確実に受けることができるとともに、接続度数等のデータを盗用したり、改ざんしたりすることも一切不可能なものとなる。

【0029】また、拡張認証データベースにおける認証データの識別は、組番号や組内番号における文字もしく

30 は記号、又はその桁数を任意に設定することにより、非常に多くの組み合わせたテンプレートログイン名により行うことなるので、多くのクライアントの要望に適合した様々な接続度数の設定が可能となる。

【0030】また、認証データを全て同一長さの固定長レコードとしたことにより、連続した数字を表現する文字もしくは記号を用いたテンプレートログイン名のもとでの該当する認証データの検索が、認証データが多量になつても一つ一つ該認証データを検索しなくとも該テンプレートログイン名に相当する固定長レコードの積によってすぐに検索されることとなる。

【0031】さらに、クライアントの自由なアクセスにより接続度数を確認することが出来るようにして、残度数に合わせたインターネットの計画的な利用ができることとなり、また、クライアントの操作で接続度数を追加合算することのできるようにして、接続度数の消費による回線の無間な途中切断の回避や、中途半端な利用による接続度数を一本化して管理することができ、また、有料情報に対する料金の徴収を認証データにおける接続度数から処理するようにして、幅広

い利用に供することができることとなる。

【0032】そして、本願発明による課金システムは一つ一つ認証データにおいて利用度数を予め決めることができるので、最初に表示するURLを指定することの出来るWWWブラウザと組み合わせて特定のWWWページを一定時間だけ表示するようにすることで、ある企業が自社の宣伝を伴う一種の料金払いカード式景品として

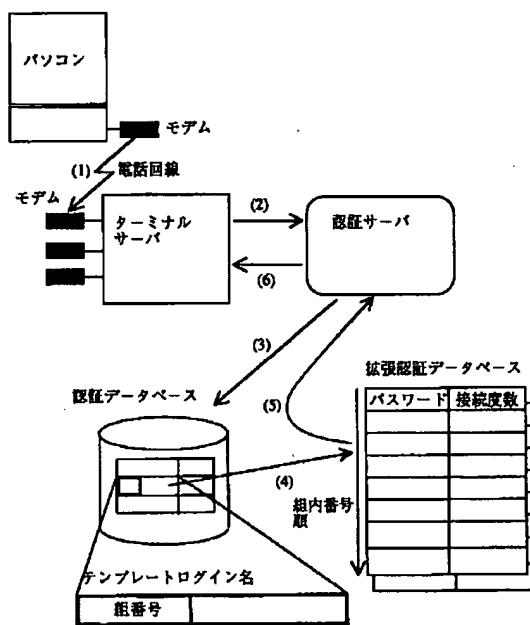
利用することも出来ることとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本願発明における認証方法を説明する概略図。

【図2】 本願発明における課金方法を説明する概略図。

【図1】



【図2】

